

サントペテルブルク卒後教育医学アカデミー創立 125 周年記念式典と長崎大学 COE プログラム「生物医学研究」合同会議に参加して

長崎大学 形成外科 秋田定伯

2010年6月10日、グローバルCOEプログラムのサントペテルブルク卒後教育医学アカデミー創立125周年記念「生物医学研究」合同会議と6月11日開催の125周年関連式典行事に、長崎大学副学長 高木正洋教授、医歯薬学総合研究科長 山下俊一教授、長崎大学病院長 河野茂教授、国立感染症研究所 金子幸弘先生、長崎大学在ベラルーシ代表部代表代行国際連携研究戦略本部高橋純平助教および、国際保健研究科修士増永智子さん、原研国際Vladimir Saenko助教共々、形成外科を代表して、小生と、林田健志先生が参加しました。

小生は、2004年以来、これで4回目のサントペテルブルク訪問になり、2004年のWHO-REMPAN会議以外では、すべて、サントペテルブルク卒後教育医学アカデミーとの研究交流になります。特にオタリ・フルツロワ学長およびアレキサンダー・スモリャノフ教授とはおよそ2年ぶりでしたが、ブランクを全く感じさせない親しみ深い再会でした。

合同会議に先立ち、オタリ・フルツロワ学長室での会談ではオタリ・フルツロワ学長のアカデミー全体の改組・移転にかける情熱・意気込みは以前にも増しており、実際の病院複合体を縮小した移転モデルを学長室に再現して、熱心に説明していただきました。この移転設備の多くが、実はオタリ・フルツロワ学長一行が数年前の長崎への学術交流訪問の際に、長崎大学病院を始めとする国内のいくつかの病院施設を見学したことを大いに参考にされていて、人的交流が実際の未来への施設にまで影響を与えており、交流の重要性を再認識いたしました。

「生物医学研究」合同会議では、高木副学長による挨拶の後、山下教授によるCOEプログラムの今後の協力展望について講演から始まり、サントペテルブルク卒後教育医学アカデミー副学長 シリン教授による研究現況講演、河野病院長による長崎大学病院の現状の講演の各論では後放射線医学（基礎医学、緊急ヒバク医療などの臨床モニター、障害治療学）、真菌データベース構築、先端医療の講演が相互から8演題発表があり、活発な討議が繰り返されました。

放射線医学、感染症医学、先端医学（再生医療学）は長崎大学およびサントペテルブルク卒後教育医学アカデミー共通の将来研究テーマであり、今後の実質的な学術交流を具体的に提言されております。姉妹校締結もサントペテルブルク卒後教育医学アカデミーの方々との人的交流から始まりましたので、双方ともに今後ともより頻繁に具体的交流の必要性が強調されました。

小生とともに形成外科から初参加の林田健志先生は、すべて公式行事に参加し、エルミタージュ博物館、その他の文化施設見学など一切経験できませんでしたが、今後の人的交流の実質化に期待して再度サントペテルブルクの地を訪問したいと強い希望をもっております。

公式行事期間中、ほぼ白夜（午前2時過ぎまで明るく、午前3時過ぎには夜が明ける）状態で、午前1時を過ぎても街をヒトが歩く状態で、とても貴重な夏の北極圏近縁の地での体験でした。最後に、共に西洋への学問と文化交流の窓口として長い歴史を持ち、人的交流の重要性を認識し

ている長崎大学とサンクトペテルブルク卒後教育医学アカデミーの益々の発展と、林田健志先生を始め後進の先生方への将来展望に繋がる様な共同研究を構築していくことが重要であると再認識いたしました。



創立者記念像の前で長崎大学関係参加者一同



Stem Cell Bank の現地スタッフら